

令和 3 年 5 月 30 日現在

機関番号：34416

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2017～2020

課題番号：17H02721

研究課題名（和文）発達障害児者の才能を活かす2E教育の理念に基づく特別支援の連携の方策に関する研究

研究課題名（英文）A Study on the Measures of Cooperation of Special Needs Support Based on the Idea of 2e Education Building on the Giftedness of Students with Developmental Disabilities

研究代表者

松村 暢隆（MATSUMURA, Nobutaka）

関西大学・文学部・教授

研究者番号：70157353

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 13,700,000円

研究成果の概要（和文）：発達障害生徒学生への特別支援の高大連携の在り方に関して、多方面の視点から基礎的調査、資料収集、プログラム実施を行った。大学から発達障害のある高校生に対する大学進学移行支援プログラムのモデルやシステムを構築・実施した。生徒学生・保護者の自己理解やニーズの検討を通じて、有効な方策の具体的な展開を図った。アメリカの2E教育の理念・実践の最近の動向の情報に基づいて、2E教育およびその背景をなす才能教育を包括的に概説した著書を刊行した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究では、発達障害のある児童・生徒・学生への支援を、才能（得意・興味）を活かして障害（苦手）を補うという2E教育の理念で捉え直し、障害への合理的配慮等に加えて個別の支援ニーズにより適切に応じる実践の必要性・有用性を訴えた。特に大学から発達障害高校生への進学移行支援プログラムのモデルとシステムを提示した。また、2E教育・才能教育の概説書の刊行により、2E教育の議論上、概念の整理・合意を促すことができる。

研究成果の概要（英文）： We investigated the measures of cooperation of special needs support between high school and university for the students with developmental disabilities by conducting basic surveys, material collection, and program implementation from various perspectives. We built and carried out a model and system of transition support program by a university for high-school students with developmental disabilities. Concrete effective measures were developed through examining the self-understanding and needs of students and their parents. Based on information on recent trends in the philosophy and practice of 2e education in the U.S., a book was published comprehensively outlining 2e education and gifted education as the background of 2e education.

研究分野：発達障害の特別支援教育（2E教育）

キーワード：ギフテッド 才能 2E教育 発達障害 高大連携 大学進学移行支援

1. 研究開始当初の背景

アメリカの学校では、発達障害と優れた才能を併せもち二重の特別支援を要する「2E」(2e: twice-exceptional) の児童生徒の学習・社会情緒的ニーズに応じる「2E教育」が実施されてきた。公教育で確立された「才能教育」の理念・方法を背景として、少数の発達障害生徒の並外れた才能を伸ばす狭義の2E教育だけでなく、全ての発達障害生徒の才能(得意・興味)を活かそうとする広義の2E教育が実践されてきた。一方、日本では、発達障害生徒への特別支援教育の目覚ましい進展と豊富な研究に比べて、その才能面に関する教育学・心理学的研究は、研究領域としても形成されなかった。しかし最近、その真摯な研究と教育実践の重要性が認識・議論され始めてきた。本研究は、2E教育の理念・実践を検討しながら、特に大学での発達障害学生修学支援を基盤として、発達障害高校生への特別支援の高大連携の在り方を探求しようとした。

2. 研究の目的

アメリカの2E教育の理念・実践の調査研究を踏まえて、大学での発達障害学生への修学支援を2E教育の理念で捉え直し、発達障害生徒・学生の得意・興味等の才能面を見出して活かせる学習・社会情緒的支援方法と、可能で望ましい高大連携のあり方を、調査・実践を通じて検討する。

(1) 2E(傾向含む)の児童生徒の才能を活かす教育システムや指導学習方法について、既存の資料やアメリカの学校訪問で得られる資料等を分析して、日本の学校で有効なモデル、の適用性について検討する。また2Eとは異なる発達多様性の特性の調査・分析を行う。

(2) 発達障害の高校生に対して大学からの特別支援の高大連携の方策を追求するため、進学移行支援として機能する大学体験プログラムを実施して、具体的なモデルとシステムを構築する。大学進学を希望する高校生が必要とする情報を障害特性に対応した形で提供する在り方を検討する。

(3) 発達障害生徒学生の事例検討を通じて、特にASD者が自身のネガティブな側面や障害特性としての困難さのみでなく、どのような強みを自覚しやすいのか、さらに強みの自覚が精神的健康にどのように関連しているのかを調べる。これを踏まえてオープンキャンパスでの大学体験プログラムでの自己理解の意義を検討する。

(4) 高校での教育相談・特別支援教育の体制整備に大学が協働することを通じて、発達障害の高校生への支援の高大連携のより有効な在り方を検討する。具体的に支援に活かせる方策の要因を検討する。

3. 研究の方法

2E教育の理念・実践に関して、及び発達障害生徒・学生への2E教育の理念による特別支援の高大連携の在り方に関して、多方面の視点から基礎的調査、資料収集、プログラム実施を行う。それらの結果を分析・検討しながら、より具体的な展開を図る。

(1) 2E教育の関連文献、調査データ、アメリカの学校訪問で得た資料等を整理・分析しながら、2E教育に関して才能教育と特別教育の部署の連携の在り方や、発達障害の児童生徒の才能を活かす制度や指導学習方法について検討する。また新たに開発した自己評定尺度の質問紙調査により、「不協和感のある才能児者」(GDF: the gifted with dissonant feelings)の特性の分析を行い、より広い発達多様性集団への支援の基礎資料とする。

(2) オープンキャンパスでの大学体験プログラムを実施して、発達障害高校生と保護者への支援方法を検討する。さらに今後より広い対象者が遠隔で大学体験プログラムに参加できるように、ウェブ上での大学体験プログラムのコンテンツを作成する。新入学の発達障害学生の大学適応支援のニーズを調査して、大学体験プログラムの効果的な情報発信や自己理解促進等の効果を検証する。

(3) 発達障害生徒学生支援のために、特にASD者の事例検討を行うことによって、当事者が自覚するネガティブな側面や障害特性としての困難さを分析することに加えて、自覚しやすい強みとは何か、さらに強みの自覚が精神的健康にどのように関連しているのか、という自己理解の意義について分析する。これらの要因を考慮しながら、オープンキャンパスでの大学体験プログラムへの参加が自己理解の深まりを促進するかを検討する。

(4) 大学での障害学生への支援体制と協働して、県内の高校や総合支援センターでの教育相談・

特別支援教育の体制を整備する。それらを拠点として、学習・社会情緒的支援ニーズの調査や大学生生活に関する学習会を通じて、発達障害の高校生への支援の高大連携を進める中で、支援により良く活かせる具体的に有効な諸要因を分析する。

4. 研究成果

2E 教育の理念を活かす発達障害生徒学生への特別支援の高大連携の在り方等に関して、多方面の視点から有用な結果が得られた。

(1) 2E 教育関連の文献に加えて、2E プログラムが実施されているアメリカの 3 地域の公立学校・教育委員会及び私立学校への訪問による調査を行った。才能教育と特別（支援）教育担当部署が連携して、2E 生徒の才能・障害特性を包括的に把握して、学習方法等を工夫して、個人の得意を活かした支援の個性化の方法の有効性が実証されてきているという動向の情報を得た。2E 生徒の才能と障害の両方に応じる支援を公正に実施することが、才能教育・2E 教育の重要な理念である様子が見て取れた。また「不協和感のある才能児者」(GDF)の質問紙調査の自己評定尺度データの因子分析結果から、GDF 特有の特性が見出され、2E や GDF は個人特有の発達多様性をもち、認知的個性を考慮した支援が必要であることが示唆された。

(2) 発達障害高校生に向けた大学進学プログラムの開発を進めるために、オープンキャンパスでの障害生徒相談窓口開設に関して、HP 上の案内や各学部の担当者への周知等、相談希望者のニーズに応える体制を構築した。大学体験プログラムの「チャレンジ・カレッジ」をオープンキャンパスで実施することによって、発達障害高校生と保護者へのより有効な支援方法の具体的な知見が得られ、プログラムを改良して、モデルとして提示できた。参加者は大学進学への心構えや大学のより具体的に幅広いイメージを持つことができた。さらにオンキャンパスでのチャレンジ・カレッジに基づいて、ウェブ上での大学体験プログラムの e-ラーニングのコンテンツを作成して公開した。また、発達障害のある新入生へのアンケート結果から、大学適応支援のニーズや本プログラムの効果が検証された。一方、大学体験プログラムに参加した保護者へのアンケート結果の分析から、保護者が事前に入りたい情報が、今後のプログラム展開に有益な知見として解明された。

(3) 発達障害生徒学生、特に ASD 者の事例検討に基づく分析を行った。障害特性等、ネガティブな困難さが自覚される一方、自覚しやすい強みの要因や、強みの自覚の精神的健康への関連が把握、示唆された。発達障害高校生に向けたオープンキャンパス「キャンパススイッチ」を実施し、それへの参加を通じて、生徒自身の障害特性に関する把握と大学（進学）イメージの深まりとの関連がどのように促されたのかについて検討した。対人関係上の困難さの自己理解の深まりと、他者との対話で進めるアクティブラーニングとのマッチングの問題に関して、大学での学びのイメージの深まりが示された。さらに、大学進学を目指す発達障害のある中高生を対象に、大学での学びのイメージと自身の障害特性とのマッチングについて、オンライン上でのオープンキャンパス等を素材として事例検討を進めた。アクティブラーニングの学習形態や、能動的に対人関係を構築するコミュニティである大学は社会に出る前の最終段階であることを踏まえ、就労までのキャリア教育の側面も含めた自己理解の重要性が示された。

(4) 発達障害の高校生への支援の高大連携を進めるため、県内の公立高校での教育相談・特別支援教育の体制整備及び、発達障害者総合支援センターや県内大学等高等教育機関・関係事業所との連携を含めて、大学としての支援体制整備を進めた。発達障害等支援ニーズのある生徒の大学進学を見据えた進路指導の在り方について相談・支援担当教員と検討した。関係教育機関・事業所との連携を深め支援ニーズの調査や大学生生活に関する学習会を実施する拠点を整備した。具体的に有効な諸要因が検出されたが、支援によりよく活かす方策の検討は今後継続される。特別支援教育に関わる ICT の通常学級への導入を促進するための研究、および GDF 児者に関する臨床心理学的研究からも有益な示唆が得られつつあり、併せて今後検討を継続する。

(5) 以上のような研究の進展、成果を踏まえて、今後、発達障害生徒学生に対して、広義の 2E 教育の理念の下、学習・社会情緒的支援の実践的研究が継続発展される基盤を構築できた。本研究から得られた知見を含めて、2E 教育に特化した編著書（松村暢隆編『2E 教育の理解と実践：発達障害児の才能を活かす』金子書房，2018）を刊行し、研究代表・分担者 3 名が分担執筆して情報発信を行った。さらに本研究を取り入れて、才能教育および 2E 教育を包括的に概論した単著書（松村暢隆『才能教育・2E 教育概論：ギフテッドの発達多様性を活かす』東信堂，2021）を刊行した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 4件）

1. 著者名 西村優紀美、曾我有可	4. 巻 19巻
2. 論文標題 発達障害大学生に対するコミュニケーション支援：集団ワークと個別面談における学生の語りを中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 富山大学保健管理センター紀要	6. 最初と最後の頁 7～16
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 山西健斗、小倉正義	4. 巻 14巻
2. 論文標題 学習困難感を抱える児童の心理面に着目した学習支援の意義：夏休み中の親子グループでの支援を通して	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 鳴門教育大学心理・教育相談室紀要	6. 最初と最後の頁 3～9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 YOKOTA Susumu, TANAKA Mari	4. 巻 9巻
2. 論文標題 The cognitive function of deception in children with Autism Spectrum Disorder	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Special Education Research	6. 最初と最後の頁 1～9
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.6033/specialeducation.9.1	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 横田晋務、松崎泰、田中真理	4. 巻 58巻
2. 論文標題 大学教員および学生における自閉スペクトラム症学生への支援に対する意識：身体障害学生への支援に対する意識との比較から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 特殊教育学研究	6. 最初と最後の頁 233～245
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.6033/tokkyou.57.233	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松村暢隆	4. 巻 68巻
2. 論文標題 発達多様性に応じるアメリカの2E教育：ギフテッド（才能児）の発達障害と超活動性 [https://kansai-u.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=4345&item_no=1&page_id=13&block_id=21]	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 関西大学文学論集	6. 最初と最後の頁 1～30
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 西村優紀美	4. 巻 66巻
2. 論文標題 合理的配慮に基づく大学生への支援	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育と医学	6. 最初と最後の頁 1014～1021
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 山西健斗、小倉正義	4. 巻 39巻
2. 論文標題 児童の学習に関する問題と学校適応感の関連についてのレビュー	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 鳴門教育大学学校教育研究紀要	6. 最初と最後の頁 79～83
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中真理	4. 巻 66巻
2. 論文標題 教育における合理的配慮のニーズと課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育と医学	6. 最初と最後の頁 952～958
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松村暢隆	4. 巻 26巻
2. 論文標題 2E教育の動向、意義と可能性	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 LD研究	6. 最初と最後の頁 303 ~ 308
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村優紀美	4. 巻 8巻
2. 論文標題 発達障害支援のトランジション：大学における修学支援を中心に	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 小児科診療	6. 最初と最後の頁 863 ~ 867
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村優紀美	4. 巻 26巻
2. 論文標題 発達障害のある生徒に対する大学体験プログラム「チャレンジ・カレッジ」の試み	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 LD研究	6. 最初と最後の頁 321 ~ 324
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Tanaka Mari	4. 巻 6
2. 論文標題 Crisis Management and Disaster Prevention Systems at Special Needs Schools During the Great East Japan Earthquake	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journal of Special Education Research	6. 最初と最後の頁 103 ~ 105
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.6033/specialeducation.6.103	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 面高有作、横田晋務、甲斐更紗、田中真理	4. 巻 4巻
2. 論文標題 基幹教育における障害学生支援の現状と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 基幹教育紀要（九州大学基幹教育院）	6. 最初と最後の頁 123～135
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 甲斐更紗、面高有作、田中真理	4. 巻 4巻
2. 論文標題 アクセシビリティ支援を担うピア・サポーター学生の学びのプロセス：知的理解の観点からみた「障害」の受容	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 基幹教育紀要（九州大学基幹教育院）	6. 最初と最後の頁 23～41
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中真理、義村さや香、田中さえ子、岡野憲一郎、松下姫歌	4. 巻 21巻
2. 論文標題 「心の教育」を考える：発達障害の理解と対応	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 京都大学大学院教育学研究科附属臨床教育実践研究センター紀要	6. 最初と最後の頁 3～33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 西村優紀美	4. 巻 20巻
2. 論文標題 発達障害のある学生に対する心理教育的支援の在り方	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 富山大学保健管理センター紀要	6. 最初と最後の頁 9～13
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中真理	4. 巻 11巻
2. 論文標題 障害学生への合理的配慮とは	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 学生心理相談室年	6. 最初と最後の頁 24～33
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中真理	4. 巻 39巻 (9)
2. 論文標題 発達障害がある子・ひとの自己理解：「あなたはどんなひとですか？」に答える多様な観点	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達教育	6. 最初と最後の頁 18～19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 田中真理	4. 巻 39巻 (10)
2. 論文標題 発達障害がある子・ひとにとっての自己理解の意味	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 発達教育	6. 最初と最後の頁 18～19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計47件（うち招待講演 13件 / うち国際学会 6件）

1. 発表者名 松村暢隆
2. 発表標題 発達多様性のある児童生徒の才能を活かすために
3. 学会等名 令和元年度広島県立教育センター研究事業成果発表会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松村暢隆、水野晶葉
2. 発表標題 才能児者の不協和感（GDF）の自己評定チェックリストの開発：2Eの発達障害と区別される超活動性（OE）をベースに
3. 学会等名 日本LD学会第28回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西村優紀美
2. 発表標題 発達障害児・者に対する意思決定支援（学会企画シンポジウム）
3. 学会等名 日本発達障害学会第54回研究大会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西村優紀美
2. 発表標題 大学における発達障害学生支援：障害学生との共学は周囲の学生をいかに育てるか（自主シンポジウム）
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西村優紀美
2. 発表標題 発達障害のある大学生への支援
3. 学会等名 NPOアカデミック・ハラスメントをなくすネットワーク主催講演会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西村優紀美、日下部貴史、カズヨ、清水聡
2. 発表標題 発達障害学生支援における家族との連携の意義：社会的自立に向けた地域支援ネットワークの活用（自主シンポジウム）
3. 学会等名 日本LD学会第28回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 西村優紀美
2. 発表標題 気になる生徒の大学進学：大学における修学支援の実際
3. 学会等名 令和元年度第2回石川県高等学校保健研究協議会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 桶谷文哲
2. 発表標題 障害のある生徒の高校から大学への移行を支援する：富山大学における発達障害のある生徒のための大学体験プログラム（シンポジウム）
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 三森睦子、武隈智美、加藤浩平、齋藤仁美、尾崎ミオ、小倉正義
2. 発表標題 発達特性のある児童生徒の才能を活かす2E教育：「楽しい」をパワーにする多様な学びとは（自主シンポジウム）
3. 学会等名 日本LD学会第28回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 OGURA Masayoshi
2. 発表標題 The effectiveness of a facilitator program for parent training in Japan
3. 学会等名 The World Congress of the International Association of the Scientific Study of Intellectual and Developmental Disabilities 2019 (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 横田晋務、田中真理
2. 発表標題 大学生における自閉スペクトラム症への態度：社会的望ましさとの関連から
3. 学会等名 日本発達心理学会第31回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 今村菜、横田晋務、田中真理
2. 発表標題 障害者支援ピアサポーター活動における主体的学びの場の形成について
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 川口智也、横田晋務、田中真理
2. 発表標題 合理的配慮の提供における他学生との公平性についての課
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第5回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中真理
2. 発表標題 発達障害児の理解と支援
3. 学会等名 日本ヨーガ療法学会研究総会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 田中真理、下中村武、菊池哲平、西村優紀美、内野悌司、吉武清實
2. 発表標題 大学における発達障害学生支援：障害学生との共学は周囲の学生をいかに育てるか（自主シンポジウム）
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 松村暢隆
2. 発表標題 2E教育の考えからの特別支援：発達障害のある子どもの才能を活かす
3. 学会等名 2018年度広島文化学園子ども・子育て支援研究センター講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 日下部貴史、西村優紀美、桶谷文哲
2. 発表標題 発達障害のある生徒に対する大学での支援情報の提供に関する一考察：高校から大学への移行に必要な支援
3. 学会等名 日本LD学会第27回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 桶谷文哲
2. 発表標題 大学等における入学期の集中支援の在り方（自主シンポジウム・発達障害学生の移行期の支援について）
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 桶谷文哲
2. 発表標題 発達障害学生に対する社会参入支援の意義と効果（自主シンポジウム・大学における発達障害学生へのキャリア支援）
3. 学会等名 日本特殊教育学会第56回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 桶谷文哲
2. 発表標題 発達障害学生の自己認識と意思表明を促進する修学支援アプローチ（自主シンポジウム・発達障害学生に対する「学ぶ・働く」を支える支援の在り方）
3. 学会等名 日本LD学会第27回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 桶谷文哲、日下部貴史、曾我有可、般若郁子、西村優紀美
2. 発表標題 発達障害学生に対する意思表明支援の在り方に関する一考察
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第4回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 OGURA Masayoshi
2. 発表標題 Internet use situation among students in Japanese special needs education school for children with intellectual disabilities
3. 学会等名 23rd World Congress of the International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 YAMANISH Kento, OGURA Masayoshi
2. 発表標題 Kinetic School Drawings among students with low academic self-efficacy: Comparison of grades
3. 学会等名 23rd World Congress of the International Association for Child and Adolescent Psychiatry and Allied Professions (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 甲斐更紗、面高有作、横田晋務、田中真理
2. 発表標題 自己評価の観点からみた情報アクセシビリティ支援を担うピア・サポーター学生育成
3. 学会等名 全国高等教育障害学生支援協議会第4回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 川口智也、田中真理
2. 発表標題 学生と教員の合理的配慮に関する建設的対話のあり方
3. 学会等名 第67回九州地区大学教育研究協議会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 MATSUMURA Nobutaka
2. 発表標題 Twice-exceptional education in Japan
3. 学会等名 Second 2E Symposium: Vision and Leadership in 2E Education (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西村優紀美
2. 発表標題 大学における障害学生支援の在り方
3. 学会等名 日本LD学会第26回大会 (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 西村優紀美
2. 発表標題 発達障害のある生徒、学生支援の連携と課題
3. 学会等名 平成29年度全国障害学生支援セミナー (招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 香取みずほ、小倉正義
2. 発表標題 自閉症スペクトラム障がい児・者を同胞にもつ「きょうだい」にみられやすい特徴：対人関係と職業選択への影響に着目して
3. 学会等名 日本心理臨床学会第36回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 YAMAUCHI Hoshiko, OGURA Masayoshi, SUGIOKA Masanori, SUZUKI Kenichi
2. 発表標題 Validation of an ASD- and AD/HD-related support needs scale in a graduate student sample
3. 学会等名 Asia-Pacific Conference on Education, Social Studies and Psychology 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田中真理
2. 発表標題 発達障害のある大学生の意思表示プロセスの支援：困り感を相談に繋げる工夫
3. 学会等名 日本LD学会第26回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 面高有作、田中真理
2. 発表標題 自閉スペクトラム症のある学生への就労支援プログラム：自己理解を含む社会移行の準備性に焦点を当てた取り組み
3. 学会等名 日本特殊教育学会第55回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 横田晋務、松崎泰、田中真理
2. 発表標題 発達障害への潜在的態度と学生支援への意識との関連
3. 学会等名 日本特殊教育学会第55回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 甲斐更紗、横田晋務、面高有作、田中真理
2. 発表標題 発達障害学生支援に対する大学教職員の理解
3. 学会等名 日本特殊教育学会第55回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 松村暢隆
2. 発表標題 2E教育とは何か：飛びぬけた才能をもつ子どもへの教育の意義とあり方
3. 学会等名 大阪医科大学LDセンター講演会（Web講演）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 松村暢隆、水野晶葉
2. 発表標題 才能児者の不協和感（GDF）チェックリストの改良：集中と完璧へのこだわりの「才能行動」との関連
3. 学会等名 日本LD学会第29回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西村優紀美
2. 発表標題 遠隔学生支援の利点と留意点：発達障害学生とオンライン授業&支援
3. 学会等名 第51回学生相談セミナー（日本学生相談学会）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西村優紀美
2. 発表標題 発達障害学生に対する組織的な修学・就職支援の取り組み：実践例をもとにした具体的対策について
3. 学会等名 国際医療福祉大学FD研修会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西村優紀美
2. 発表標題 医療系大学における発達障害学生への支援の在り方（自主シンポジウム）
3. 学会等名 日本特殊教育学会第58回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 西村優紀美、門目紀子、末吉彩香、柘植雅義
2. 発表標題 発達障害のある高校生に向けた大学体験プログラムの意義：高校生は何が知りたいのか、大学は何を準備できるのか（自主シンポジウム）
3. 学会等名 日本LD学会第29回大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 鳥居深雪、村中泰子、西あかね、西野恵子、高塚倫子、西村優紀美、田中裕一
2. 発表標題 高校通級と大学移行支援の統合の試み：大学進学を希望する高校生への通級指導モデル（自主シンポジウム）
3. 学会等名 日本発達心理学会第32回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 田中真理
2. 発表標題 発達障害学生のオンライン授業環境
3. 学会等名 2020年度私立大学情報教育協会教育イノベーション大会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中真理、横田晋務
2. 発表標題 オンライン授業における合理的配慮について
3. 学会等名 第4回4月からの大学等遠隔授業に関する取組状況共有サイバーシンポジウム（国立情報学研究所）（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 上田綾香、田中真理、五十嵐友里
2. 発表標題 大学生における自閉スペクトラム特性がアイデンティティの確立に与える影響：関係性に着目して
3. 学会等名 日本発達心理学会第32回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小倉正義
2. 発表標題 常勤的スクールカウンセラーの成果と展望：徳島県における取り組みを振り返って
3. 学会等名 日本教育心理学会第62回総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 辻歩実、小倉正義
2. 発表標題 通常学級での学習困難児への支援におけるICT活用に対する態度：特別支援教育に関するイラショナル・ビリーフとの関連に着目して
3. 学会等名 日本教育心理学会第62回総会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 OGURA Masayoshi, FUKUTA Hiroshi, YOSHI Kenji
2. 発表標題 Students' attitudes of the school counselor in Japanese high schools: Focus on differences in working status of counselors
3. 学会等名 24th World Congress of the International Association for the Child and Adolescent Psychiatry and Allied Profession (国際学会)
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計12件

1. 著者名 吉武清實、岡田有司、榊原佐和子、田中真理、村田淳、宇津野康子、須藤正彦、中島幸則、宮城愛美、天野和彦、石原保志、池田忠義、高橋真理、長友周悟、青野透、布柴達男	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東北大学出版会	5. 総ページ数 221
3. 書名 共生社会へ：大学における障害学生支援を考える	

1. 著者名 北洋輔、平田正吾、尾崎久記、清水由紀、鈴木浩太、奥住秀之、軍司敦子、奥村安寿子、松本秀彦、室橋春光、田中雅子、田中真理	4. 発行年 2019年
2. 出版社 福村出版	5. 総ページ数 198
3. 書名 発達障害の心理学：特別支援教育を支えるエビデンス	

1. 著者名 松村暢隆、小倉正義、吉原勝、岡田克己、杉山明、水野証、宇野昭雄、小黒明日香、加藤浩平、西村優紀美、ソルト、小坂智子、水野晶葉	4. 発行年 2018年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 142
3. 書名 2E教育の理解と実践：発達障害児の才能を活かす	

1. 著者名 竹田一則、近藤武夫、青木真純、村田淳、田中真理、五味洋一、佐藤克敏、高橋知音、西村優紀美、末富真弓、小林秀幸之、青柳まゆみ、半田こづえ、加藤靖佳、田原敬、有海順子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 ジアース教育新社	5. 総ページ数 274
3. 書名 よくわかる！大学における障害学生支援：こんなときどうする？	

1. 著者名 小谷裕実、村田淳、佐藤克敏、岩田聡、西村優紀美、桶谷文哲、日下部貴史、大江佐知子、清水伸剛、窪貴志、高橋亜希子、吉田裕子、松下妙子、佐野大祐、松田裕次郎、岩瀬佳代子	4. 発行年 2018年
2. 出版社 黎明書房	5. 総ページ数 149
3. 書名 高校・大学における発達障害者のキャリア教育と就活サポート	

1. 著者名 明齋光宜、飯田愛、小倉正義	4. 発行年 2018年
2. 出版社 合同出版	5. 総ページ数 111
3. 書名 6歳児から使えるワークブック1 発達障害の子の気持ちのコントロール	

1. 著者名 水間宗幸、小倉正義、高柳美佳、木村紗彩、谷麻衣子、小川茉奈美、岡谷絵美	4. 発行年 2019年
2. 出版社 合同出版	5. 総ページ数 133
3. 書名 6歳児から使えるワークブック2 発達障害の子の気持ちの聞き方・伝え方	

1. 著者名 京林由季子、阿部俊彦、大塚玲、小田浩伸、田中真理、石橋由紀子、梅永雄二、小野次郎、黒田美保、島治伸、佐藤克敏、若林上総、松下浩之、小貫悟、近藤武夫、藤野博、柘植雅義、松村暢隆、小倉正義、西村優紀美	4. 発行年 2017年
2. 出版社 金剛出版	5. 総ページ数 304
3. 書名 特別支援教育の到達点と可能性	

1. 著者名 西村優紀美、柴田礼子、佐藤秀嗣、永坂晃子、日下部貴史、中山肇、佐藤秀明	4. 発行年 2021年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 174
3. 書名 発達障害のある生徒・学生へのコミュニケーション支援の実際：修学から就職後の支援まで	

1. 著者名 北川明、岸本久美子、西村優紀美、角田直枝	4. 発行年 2020年
2. 出版社 メジカルビュー社	5. 総ページ数 200
3. 書名 発達障害のある看護職・看護学生支援の基本と実践	

1. 著者名 小田浩伸、田中裕一、松野良彦、矢田栄美、黒崎千春、加納明彦、熊本由似子、副島勇夫、濱本秀伸、清岡奈津子、長谷川陽一、西村優紀美	4. 発行年 2020年
2. 出版社 金子書房	5. 総ページ数 112
3. 書名 高等学校における特別支援教育の展開	

1. 著者名 松村暢隆	4. 発行年 2021年
2. 出版社 東信堂	5. 総ページ数 360
3. 書名 才能教育・2E教育概論：ギフテッドの発達多様性を活かす	

〔産業財産権〕

〔その他〕

富山大学学生支援センターWebサイト 電子教材（e-learningコンテンツ）・チャレンジカレッジ http://www3.u-toyama.ac.jp/gp07/e-index.html
--

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	西村 優紀美 (NISHIMURA Yukimi) (80272897)	富山大学・保健管理センター・准教授 (13201)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田中 真理 (TANAKA Mari) (70274412)	九州大学・基幹教育院・教授 (17102)	
研究分担者	小倉 正義 (OGURA Masayoshi) (50508520)	鳴門教育大学・大学院学校教育研究科・准教授 (16102)	
研究分担者	桶谷 文哲 (OKETANI Fuminori) (60714201)	富山大学・学生支援センター・特命講師 (13201)	平成30（2018）年度より追加
研究分担者	柘植 雅義 (TSUGE Masayoshi) (20271497)	筑波大学・大学院人間総合科学研究科・教授 (12102)	平成29（2017）年度末で削除

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
連携研究者	高橋 知音 (TAKAHASHI Tomone) (20291388)	信州大学・学術研究院教育学系・教授 (13601)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関